

2013年を迎えて

世界のイノベーションをリードする 価値創造に向けて

平素より『日立評論』をご愛読いただき、心より御礼申し上げます。当社技術陣が誇る最新の成果をご紹介します「2013年度 日立技術の展望」をぜひご一読いただければと思います。

2013年を迎えた今、私たちを取り巻く環境は、あらゆる面で不確実性が高まっています。環境問題やエネルギー政策の課題に加え、欧州債務危機や新興国の景気減速といった経済問題、国家間の緊張やテロへの恐れなど、懸念すべき要素が山積しています。

このような時代にあって、各国・地域の健全な成長と秩序ある発展の前提となるのは、安全・安心で経済性に優れた社会基盤です。そうしたニーズの中で、日立グループがめざしているのは、IT (Information Technology) を活用した社会インフラシステムの提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していくことです。

まず、本号の巻頭では、日立グループが英国において高速・高効率な鉄道システムをトータルで提供している事例を取り上げました。ロンドン五輪において観客の会場への足としても活躍した日立の高速列車は、そのスピードと安定したサービスで、英国のお客様に大変高く評価いただいています。

続いて、将来のイノベーションにつながる一つ一つの成果を全7章にわたってご紹介しており、各章冒頭の「HIGHLIGHTS 2013」では、以下のような技術や製品・ソリューションについて、実際の担当者たちが語っています。

情報・通信システム分野では、クラウドコンピューティングが拡大し、各種情報端末が急速に普及しています。このような環境変化の中で、社会全体におけるITの将来像を見直し、新たな事業コンセプトを策定しました。また、時々刻々と生まれるビッグデータを有効活用し、お客様と共に新たな価値の創出やビジネスの革新につなげるサービスの強化などを行っています。

電力システム分野では、低炭素社会の構築に向けて、火力発電の高効率化や環境負荷低減のための技術開発が続けられています。このような取り組みが進む中、日立グループは、将来の石炭火力の主流の候補とされる石炭ガス化複合発電の実証実験に参画しています。また、再生可能エネルギーの普及に伴って電力系統の安定化が求められる中で、可変速揚水発電システムが再び注目を浴びています。

社会・産業システム分野では、産業機械の省エネルギーのニーズが根強くあります。それに応える製品の一つとして、電動・ハイブリッド化でさらなる低燃費を実現した建

設機械を取り上げました。また、東日本大震災からの復旧・復興を支える製品についてもご紹介しています。

そのほか、日常生活に身近な製品・サービスから研究開発分野まで、幅広いテーマを挙げました。

今日、私たちが直面するさまざまな課題は、社会に新しい価値観をもたらし始めています。こうした変化の時代にこそ、日立グループは、多様化するニーズを鋭敏に感じ取り、お客様にとってより価値の高いサービスを創造していきたいと考えています。そのためにも、従来の観点にとらわれることなく、国内外であらゆるパートナーシップを構築していきます。そして、世界全体を舞台にしつつ、それぞれの地域社会に固有の課題に向き合い、その解決にひたむきに取り組んでいきます。

広く社会に目を向ける姿勢、それが「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念を掲げる日立グループの原点だからです。

読者の皆様にとって、本号が次のイノベーションのヒントになれば幸いです。本年の日立グループの挑戦にもぜひご期待ください。

日立製作所 執行役社長

中西 宏明

